

石巻・大川小

避難経過「説明と矛盾」

遺族、市教委に質問書

東日本大震災で児童74人、教職員10人が死亡・行方不明となった石巻市大川小の児童らの避難経過をめぐる、これまでの市教委の説明と食い違う内容の文書が見つかったとして、遺族の有志が16



記者会見する佐藤敏郎さん(左)ら遺族

日、市教委に質問書を提出した。遺族たちは提出後、仙台市内で記者会見し、「市教委の説明には矛盾が多い。真実を明らかにしてほしい」と訴えた。

遺族側によると、文書は震災から5日後に市教委が当時の校長から聞き取ったメモ。「(保護者に子どもを)引き渡す中に津波」これまで津波区での記者会見には、

仙台弁護士会館(青葉区)での記者会見には、

記者会見に先立ち、佐藤さんら3人が市教委を訪問し、境直彦教育長に質問書を手渡した。19日ま

「？」などの記述があった。遺族の求めに応じて14日に公開された。

54遺族のうち8遺族の11人が出席。6年生だった次女みずほさん(48)は「津波が来たから逃げろ」となったのではなかったと、市教委の説明は矛盾が多い。安全なはずの学校でなぜ多くの子どもが亡くなったのか、きちんと説明してほしい」と話した。

でに回答するよう求めたのに対し、境教育長は「中身を検討し、ご遺族の気持ちに添えたい」と述べた。

市教委が検討している「最終的に、市教委の説明に納得できない場合は法的手段もあり得るのか」との質問に、「それも選択肢の一つ」と答えた。

「わが子の最期 真実を」 遺族 会見

津波で命を落とした石巻市大川小の児童の親たちは、16日の記者会見で口々にわが子への思いを語り、事実の解明に向けて、市教委に対話を継続するよう求めた。

でも、子どもがどんな思いで死んでいったのか。どんな細かいことでも知りたい」と涙を流した。

夫の中学教師敏郎さん(48)は「対立するのではなく、同じテーブルで検証について話し合いたい」と訴えた。

大川小では児童に加え、教職員も9人が亡くなり、1人は今も不明のまま。次女で6年生だった真衣さんを亡くした鈴木典行さん(47)は「先生たちに何の恨みもない。震災後に市教委が遺族にいいかげんな説明をしてきたことが許せない。真実を明らかにしたい」と述べた。

6年生だった次女みずほさんを亡くした佐藤敏郎さん(46)は娘の遺影を抱いて会見に臨んだ。「事実を知るのはつらい。

敏郎さんはこれまで「市教委にはお世話になった先生もいる。発言す

れば生徒にも迷惑や心配を掛ける」と、公の場で主張をためらっていた。

「波にのまれた子どもたちの恐怖を思えば、大人がつからいと言えない。学校、教員は信頼されるべきだし、(発言することで)その力になれる。」

かす、コンサルタント会社に丸投げしようとしている」と疑問視。市議会6月定例会で審議中の本年度一般会計補正予算案に盛り込まれた関連費用2000万円の再考を求めた。